

世界のマラリア対策とマラリア・ノーモア・ジャパンの活動

1. マラリアとの関わりとマラリアの現状：

この度は、ワイズメンズクラブ国際協会 西日本区中西部長 吉田由美様と同窓のご縁でマラリアに関する寄稿の機会をいただき誠にありがとうございます。

最初に、私がなぜマラリアに関わったのかからお話し、さらに、マラリアの現状、課題、そして目標、さらに今、私が関わっている NGO の活動をご紹介します。

私がマラリアに関わるようになったのは、今から 13 年前、住友化学でベクターコントロール（媒介害虫制御）事業部に配属になった時からです。主な仕事は、オリセット®ネットという「マラリア対策用の蚊帳」を製造・普及・販売するということでした。2007 年最初に取り組んだ頃は、アフリカでの製造規模の拡充も普及・販売もなかなか上手くいきませんでした。やがて事業は軌道に乗り、最も多い時期には年間 5000 万張りほどの規模の蚊帳を製造・普及・販売するほどまでになりました。私がこの事業に関わった頃には、世界では、年間約 3 億人がマラリアに罹り、100 万人以上が命を落とすと言われていました。そのほとんどは、アフリカであり、5 歳以下の子ども達です。それが、2015 年には、罹病者は、2 億 1400 万人になり、亡くなる人の数は、約 44 万人にまで減少してきました。そこに大きく貢献したのは、マラリア原虫を媒介する蚊に刺されることを予防・防虫する LLIN（Long Lasting Insecticidal Bed Net: 防虫剤入りの長期残効型蚊帳）、診断のための迅速診断テスト（RDT: Rapid Diagnostic Tests）キットと治療のための抗マラリア薬（アルテミシニンと呼ばれる熱帯熱マラリアの特効薬）の 3 つの製品（技術・道具）でした。



蚊帳配布の様子 写真提供；住友化学株式会社

それらの製品（技術・道具）がグローバルファンド（世界エイズ・結核・マラリア対策基金）、PMI（大統領マラリア・イニシアティブ：アメリカ合衆国国際開発庁（USAID）が主要メンバー）やその他先進国の ODA など国際支援機関からの資金提供を受け、途上国の保健省が実施するマラリア対策プログラムによって、効果的かつ効率的に普及が進み目覚ましいマラリアの減少という成果もたらされたのです。これらの製品の普及には、ロールバックマラリア（RBM Partnership to End Malaria）が果たす国際協調のためのネットワークづくりが、深く関わってきました。

さてその後 2012年の秋、アメリカに本部をもつ「Malaria No More」という国際 NGO からアジアにもその支部を作りたいという意向が住友化学に寄せられて、その意に応える形で日本組織の設立に私は関わり、そのまま NGO での活動をするようになりました。私自身、マラリアとの闘いをビジネスの立場から市民社会の立場へ移したわけですが、「蚊に刺されただけで子どもを亡くす母親の深い悲しみ」、脳裏に焼き付くその光景が私を突き動かす原動力に変わりはありません。



マラリアで我が子を亡くし悲しみに暮れる母親：(c) M. Hallahan

2. 今後の主なマラリアの課題は、「薬剤・殺虫剤耐性」と「資金調達」

先にも申しあげましたとおり、これまでのマラリア対策は、媒介する蚊を駆除する LLIN などによる「予防」、迅速診断テストによる「診断」と抗マラリア薬による「治療」の普及により成果を上げてきました。しかし、最新の世界保健機関 (WHO) の 2019 年マラリア報告書によると、2018 年の罹患者数は約 2 億 2800 万人、死亡者数は約 40 万人です。この数字を見ていただいてもお解りいただけますように、マラリアの罹患者の数、死亡者の数は、2015 年以降、下げ止まりの傾向にあります。その理由のひとつに、LLIN で使用が推奨されている唯一の殺虫剤であるピレスロイド剤に対し、近年、多くの国で耐性をもった蚊が出現したことがあります。現在では、2 種類の異なる殺虫剤を使用することで、殺虫剤耐性が進み拡散されるリスクを緩和できるとして、そのような新たな蚊帳の開発が優先事項として奨められています。また、蚊帳配布と並行して行われている屋内残留散布 (IRS) の殺虫剤耐性に対しても、ピレスロイド剤とは違ういくつかの有望な製品が開発され、すでにその普及が始まっています。

一方、抗マラリア剤への薬剤耐性の問題も繰り返し起こっています。多剤耐性をもつ熱帯熱マラリアにも効果的であるとされてきたアルテミシニンにも耐性のある原虫が近年アジアの大メコン圏のカンボジア、ラオス、ミャンマー、タイ、ベトナムの 5 か国で報告されています。このため、2014 年 9 月に WHO のマラリア政策諮問委員会 (MPAC) は、2030 年までにこの地域から熱帯熱マラリアを排除するという目標を採択することを勧告し、翌年 5 月に大メコン圏でのマラリア排除戦略 (2015 年～2030 年) が開始されました。

このように、抗マラリア薬や殺虫剤に対する耐性に対応する新しい技術や製品 (道具) の開発が課

題となっています。

もう一つの課題、それは、「マラリア対策用の資金の調達」です。グローバルファンド、アメリカの PMI やイギリス、フランスなどの先進国からの ODA 予算によりある程度までは調達できていますが、それでもまだまだマラリア排除に必要な資金には足りません。昨今の世界経済の事情、とくに、新型コロナウイルス感染症対策の新規資金の必要性などを考え合わせると今後は、この「資金調達」が大きな課題になることは明白です。

3. 世界の目標：2030年までにマラリアを無くす

(ロールバックマラリアの役割)

過去 15 年間におけるマラリア対策において画期的な成果を上げ、歴史上もっとも少ない感染者、死亡者を実現してきました。

国連の推定によると過去 15 年間で 700 万人以上の命が救われ、マラリアで命を落とす子どもの数は 50%以上削減しました。とはいうものの、近年のその進度は鈍く、未だにマラリアで 2 分に 1 人の割合で子どもの命が失われています。

一方、一度は不可能だと思われた、マラリアをこの世の中から無くすことを達成するチャンスが訪れているのも事実です。

国連は、2030 年までに 2015 年と比較して 90%マラリアをなくすと言っていますし、アジア太平洋地域 (APLMA: Asia Pacific Leaders Malaria Alliance) やアフリカ (ALMA: Africa Leaders Malaria Alliance) の政治的な指導者達は、皆、向こう 10 年、つまり、2030 年までにその地域からマラリアを無くすことに同意しています。その実現のためには、先に申し上げたように、薬剤・殺虫剤耐性という課題を解決するための新しい技術や製品 (道具) の開発と、グローバルファンドや PMI / USAID や他国の ODA などのマラリアプログラムの現地での実施資金を確保することが不可欠な要素です。

こうした状況の中、ロールバックマラリアは、世界全体で目標を共有し、各国の政府、並びに企業、さらに、UNITAID (ユニットエイド：国際医薬品購入ファシリティ)、グローバルファンドやそのほかの国際 NGO などマラリア排除に関わる組織との連携を促進し、資金調達や新規技術の研究開発、さらにその普及にむけての国際協力を促進するという役割を持って活動をしています。

4. ZERO マラリア 2030 キャンペーンの実施 (マラリア・ノーモア・ジャパンの活動)

さてそれでは、最後に私達の活動の一つをご紹介します。

私達、Malaria No More は、米国に本部をもち、ロールバックマラリアの事務局の中でも中心的な立場を維持し、本部、英国支部と共同でロールバックマラリアの活動を強く支援しています。

特に、日本国内においては、2017 年に「ZERO マラリア 2030 キャンペーン」を立ち上げました。キャンペーンでは企業や国際機関、研究者、政府はもちろん、著名人、メディア、市民組織、協力団体など幅広い分野の方々と連携し、蚊が運ぶ疾病とは何かわかりやすく伝えるとともに、「今、日

本に何ができるか？」と言った命題で個別の企業や研究者が具体的に取り組んでいる課題や技術を紹介するといった企画で参加する組織や団体の皆さんにわかりやすいプログラムを展開してきました。

また、2019年からは、ラウンドテーブルという形式でより広い視野に立って、地球規模での「気候変動と蚊が運ぶ感染症」や「海外稲作とマラリア」と言った話題を取り上げて分野横断的かつ国境を越えた取り組みについて、より幅広く多くの人にマラリアについて議論していただく機会を提供しています。また、いずれの活動も、ロールバックマラリアとの連携のもと実施させていただいております。これからも、こうしたイベントへのご理解、ご参加やご支援をよろしくお願い申し上げます。



2019年8月27日開催 ZERO マラリア 2030 キャンペーン 第1回ラウンドテーブルの様子 : (c) Malaria No More Japan

最後に今一度、ワイズメンズクラブ国際協会 西日本区中西部長 吉田由美様とのご縁に感謝申し上げますとともに協会の益々のご発展を祈念しております。
誠にありがとうございました。

マラリア・ノーモア・ジャパン
顧問 水野達男

マラリア・ノーモア・ジャパン： <https://www.malarianomore.jp/>
ZERO マラリア 2030 キャンペーン： <http://zero2030.org/blog/>